

準決勝 第1試合

日時 2015年 2月 21日(土曜日)
試合会場 青葉の森陸上競技場
気象状況 天候: 晴れ ピッチ状況: 天然芝
キックオフ 10時00分

対戦チーム

Wings-U12

西小中台FC レッド

試合結果

0	0	前半	0		3
	0	後半	3		
	-	(PK)	-		

戦評

準決勝第一試合は、予選4試合を含め無敗で勝ち上がってきたWingsU-12(以下、Wings)と準々決勝のPK戦を制した西小中台FCレッド(以下、西小中台)の戦いとなった。

前半開始早々の2分に西小中台9番佐々木海くんのファーストシュートがWingsゴールを襲う。その後の6分、8分と西小中台のシュートが続くなど、立ち上がりは細かくパスをつないで相手DFを崩そうとする西小中台の攻撃が優勢な展開となった。Wingsも単に防戦一方となることはなく、攻守の切替をすばやく行い、西小中台DFライン裏のスペースをつく展開の早い攻撃を狙いながら得点チャンスをうかがう、という緊縛したゲームとなっている。

お互い中盤での攻防が続く11分には、Wings4番小倉拓海くん、9番和田祥英くんが1-2で西小中台DFの裏へきれいに抜けたかに見えたが、わずかにオフサイドの判定。また、14分には同じくWings7番堤俊輔くんがロングシュートを放つなど、Wingsは巧みな戦術で流れを変えようと攻撃を仕掛ける。一方の西小中台も、先制点での主導権を目指して、7番三宅貴志くん、5番堀川陸くん、8番大田龍徳くんらが絡みながらサイドからの攻撃を盛んに仕掛けるが、WingsDF陣を破ることができない。両チームとも決定的なチャンスを作ることができないまま、前半は終了。【0-0】

先取点をどちらがものにするか、と言う緊張の中で始まった後半戦、ゲームが動いたのは3分。西小中台8番大田龍徳くんから繋がれたパスを10番鈴木雄太くんがドリブルで右から切れ込み、ゴール左へ蹴りこんで見事な先制点を挙げた。追いつきたいWingsは、11番渡邊龍季くん、59番山口大雄くんが再三にわたって前線にパスをつなげていくが、西小中台12番鈴木海嵐くん、18番甲斐雅大くんのCB陣が連携よく裏のスペースへの侵入を阻んでいる。

9分、西小中台に追加点が生まれる。10番鈴木雄太くんがペナルティエリア内を左へ流れながらドリブルし、相手DFのマークに隙ができたところへ7番三宅貴志くんが走りこんでボールを受け、落ち着いてシュートを決める。

2点ビハインドとなったWingsは14分頃からベンチも動き、選手の交代、ポジションの変更などでいっそう攻撃的な布陣へと変更。試合はより緊張感をまして終盤へと進み、Wingsメンバーもけしてあきらめることもなくハードワークを続ける。15分には、Wings59番出口大雄くん、同じく11番渡邊龍季くんが続げざまにシュートを打つが、西小中台1番GK矢島隆貴くんががっちりゴールを守り、点には繋がらない。そして、ロスタイムに入った20分、西小中台6番服部颯汰くんから出たパスをフリーで受けた5番堀川陸くんがゴールポストを掠めてサイドネットを揺らすミドルシュートを決め、決勝点をたたき出した。

この後、試合終了を告げるホイッスルが鳴りゲームセット。午後の決勝戦へ西小中台がまずは名乗りを上げることになった。【0-3】

Wingsも敗れたとは言え、最後まであきらめない姿は印象的で、個人の技術、戦術の高さはもちろん、ゲームの流れをもピッチ上で冷静に判断して対応しようとする姿勢は、U-12の最終大会にふさわしい高いレベルの力と関心させられるところであった。心から拍手を送りたい。

準決勝 第2試合

日時 2015年 2月 21日(土曜日)
試合会場 青葉の森陸上競技場
気象状況 天候: 晴れ ピッチ状況: 天然芝
キックオフ 11時00分

対戦チーム

バディーSC千葉

ジョーカーレFC

試合結果

2	1	前 半	0	
	1		後 半	0
	-		(PK)	-
			0	

戦 評

準決勝第一試合の興奮が冷めやらぬ中、第2試合の両チームがピッチに入る。両チームとも、いくぶん緊張気味にも見える中、第2試合の開始を告げるホイッスルが鳴った。

開始早々から躍動的な動きを見せるバディーSC千葉(以下、バディー)が、2分から立て続けにジョーカーレFC(以下、ジョーカーレ)のゴールを襲う。バディー20番若菜兼悟くんのシュートを皮切りとして、すぐその後には、11番上谷飛鳥くんの左からのクロスに7番音川俊太郎くんがヘッドで合わせる、また、3番篠塚颯吾くんのロングフィードに13番斉藤海一くんが飛び出してゴールを狙うなど、立ち上がりからバディーがペースをつかむ展開となっていく。一方のジョーカーレも、GK16番大森統真くん、CB11番鈴木正規くん、6番庄司龍之介くんらの身体を張ったディフェンスでバディーのシュートをゴール枠へは飛ばさせない。そして6分、バディー20番若菜兼悟くんの絶妙のファーストタッチからのパスを、11番上谷飛鳥くんが落ち着いてゴール左へ流し込み待望の先取点を挙げる。

この後、ジョーカーレは23番山本大輝くんがゲームをコントロールしながら反撃の機会を伺う展開へとようになってくるが、バディーの早い寄せと連動した攻撃的な動きに、なかなか中盤でのボール支配ができず相手ペナルティエリアへなだれ込むことができない。ゲームはバディー優勢のまま前半を終了する。【1-0】

後半、まずは追いつきたいジョーカーレではあったが、前半の勢いのままにバディーがゲームを支配する展開で始まる。5分には前半同様の展開の中でバディーがシュートを放つが得点にはならない。しかし、なんとしても追いつきたいジョーカーレは、8分に12番田仲幸大くんがロングシュートを狙う。バディーGK15番小川紫音くんのセーブで惜しくもゴールにはならなかったが、ゴールを目指す、と言う意識を強く感じさせるいいシュートだった。ジョーカーレは、サイド突破、中央突破とチャンスをつかんでバディーを揺さぶるが、ラストパスをバディー18番佐藤太星くん、6番佐藤佑袖くんらのCBがきっちりに対応しては反撃に切り替える、と言う一進一退の攻防へと流れが変わり始める。が、11分、分厚い攻撃を仕掛けていたバディーに追加点のチャンスが来る。20番若菜兼悟くんが基点となり、右から流れ込んだ13番斉藤海一くんにアシスト。ゴール左に狙いすましたシュートが決まり、貴重な追加点を挙げるようになった。

この後も反撃を試みたいジョーカーレは、選手の交代なども含めてなんとかチャンスをつかもうとする。23番山本大輝くん、4番菅野幹太くん、12番田仲幸大くんらが中盤で何度も攻撃を組み立てようと試みるが、バディーの守りも固く、また早い攻守の切替にカウンターすらままならない状況で試合は進んだ。19分には、ジョーカーレ8番西山正悟君からのパスを受けて23番山本大輝くんが絶好のタイミングでミドルシュートを放ったが、相手DFにブロックされてしまう。

このジョーカーレのシュートを最後にゲームは終了。バディーが決勝へのもう一枚のチケットを手にするようになった。【1-0】

バディーが攻守にわたり優勢となり、その良さが目立つゲームではあったが、ジョーカーレもしっかりと中央やサイドからゲームを組み立てようと最後まで自分たちのサッカーにこだわった姿勢は、単に勝ち負けではなく、目標をけして見失うことなく、自分たちのサッカーをやり通すと言うあり方が際立った内容だった。選手たちには、このゲームが心に残るゲームの一つとなってくれることを願っています。

決勝戦

日時 2015年 2月 21日(土曜日)
試合会場 青葉の森陸上競技場
気象状況 天候: 晴れ ピッチ状況: 天然芝
キックオフ 13時00分

対戦チーム

西小中台FC レッド

バディーSC千葉

試合結果

3	1	前 半	1	1
	2		0	
	-		-	
	-		-	
	-		-	
		(PK)		

戦評

第40回の記念大会ともなる小学生大会の優勝者を決定するゲームがいよいよ始まろうとしている。持ち味の攻撃力を活かした西小中台FCレッド(以下、西小中台)、分厚い攻撃とバランスの取れた守備を發揮したバディーSC千葉(以下、バディー)の両チームの戦いとなった。

冬の寒い中ではあるが、風もほとんど無く、時折かけることもある陽の光にも少し暖かみが出てきたサッカー日和の天候の下、予定の時刻どおりに西小中台のキックオフでゲームは始まった。

西小中台は相手を見ながらやや慎重にゲームに入ってきたが、そこをチャンスとばかりバディーは持ち前の全体が連動してくる攻撃で、3分にいきなり3番篠塚颯吾くんのミドルシュートで先制点を挙げる。これで勢いに乗ったバディーは、その後も早い展開でボールを支配しながら、8分にも13番齊藤海一くんがアウトにかけた技ありのシュートを狙うなど、テンポ良く攻撃を仕掛ける。一方の西小中台は、再三のバディーの攻撃の芽を摘みながらチャンスをうかがおうとするが、DFラインでボールをカットしても、バディーの前線からのプレスが強く、なかなか味方中盤にボールを収めることができない。ゲームがバディー優勢で進んでいた18分、西小中台は右CKを得ると18番甲斐雅大くんが蹴ったボールに10番鈴木雄太くんが積極的に絡み、ボールはゴールへ。西小中台がまさに執念でゲームを振り出しに戻した一瞬だった。この後は互角の展開で前半を終了。【1-1】

後半開始からボールをテンポ良く動かしながらリズムを作っていくバディーではあったが、西小中台の前線も運動量を増やしてバディーDFとの駆け引きが多くなっていく。そんな中の3分、右からパスを受けた10番鈴木雄太くんがそのままドリブルで二人をかわしてゴール右へ落ちてシュート。パスを警戒したバディーDF陣の足が止まった瞬間を見逃さない見事なゴールが決まる。この追加点で、ゲームの流れは徐々に西小中台へと動き始める。バディーは追いつこうとする焦りが出ているのか、少しずつではあるがパスの距離が長くなり始め、インターセプトで奪われる局面や、わずかにずれたパスをさらわれるという局面が増えてくる。一方の西小中台は、カットしたボールをすばやく前線へ持ち込み5番堀川陸くん、10番鈴木雄太くん、7番三宅貴志くんのトリオで、バディーのDF陣をかき回す。バディーも10番齊藤友翔くん、13番齊藤海一くん、20番若菜兼悟くんらで西小中台DFを突破しようとするが、シュートまでは持ち込めないという緊迫した展開の中での終了間際の19分、前がかりとなっているバディーから自陣でボールを奪った西小中台が前線に構えていた10番鈴木雄太くん、へボールをつなぐと約30メートルをドリブルで突破、最後は右アウトでゴール右サイドネットへ技のシュートを決める。これが優勝を決定づけるまさに決勝ゴールとなり、試合は終了。西小中台は選手、ベンチ、サポーターを挙げて優勝の喜びを爆発させる瞬間を迎えた。【2-0】

惜しくも準優勝となったバディーではあったが、チームやゲームの流れの中から自分を観る判断ができる選手が多く、観ても興奮するサッカーだった。特に、ボールを保持したときの個々の関わりはすばらしく、選手の質の高さに関心した。

また、西小中台は、全てのメンバーが自分のやるべきことや局面打開の仕方など「考えるサッカー」を徹底し、ゴールにこだわるサッカーを見せてくれた。特に、前半の先制された局面でも、後半に残り時間が少ない中で優位に立っている局面でも、選手たちのサッカーは全くぶれることなく、ひたすらに自分たちのサッカーを追い求める姿は、まさにこの記念大会の勝者にふさわしい姿として映ることとなった。

両チームの選手は、良き指導者、理解のあるサポーターに恵まれたことに感謝しつつ、この大会成果をジャンプ台にして、次のステップへと大きく飛躍されることを期待したい。